

# 生涯スポーツ



# 生涯スポーツ

人が生涯にわたってスポーツ活動を楽しみながら健康増進を図るとともに、スポーツを通して人生を豊かなものにすること。一般的な解釈として、(1)自己が生涯に継続してスポーツを楽しむこと、(2)幼児から高齢者までのあらゆる人たちがスポーツに親しむこと、という二つの視点でとらえられる。

生涯スポーツが国際社会で強調されるようになったきっかけは、1960年代にヨーロッパで高まったスポーツの大衆化運動、スポーツ・フォー・オールSports for All運動である。

日本ではスポーツ振興法(1961年)の規定に基づき、スポーツ振興基本計画が2000年(平成12)に策定された。「国民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現する」ことを目指し、成人の週1回以上のスポーツ実施率が50%になることが目標であった。

日本大百科全書(ニッポニカ)



## 主な種目の部員数(男女別)

種目	男子	女子
陸上	66,868	38,960
バスケットボール	87,524	56,132
バレーボール	45,158	57,103
サッカー	162,397	10,991
水泳	21,131	12,737
硬式テニス	66,000	36,000
ソフトテニス	46,122	33,308
バドミントン	65,742	55,986
卓球	53,784	33,187
ラグビー	20,011	
硬式野球	143,867	
軟式野球	8,214	

令和元年度(公財)全国高等学校体育連盟 加盟・登録状況  
【全日制＋定通制】令和元年8月現

令和元年(2019年)度加盟校部員数・硬式・軟式

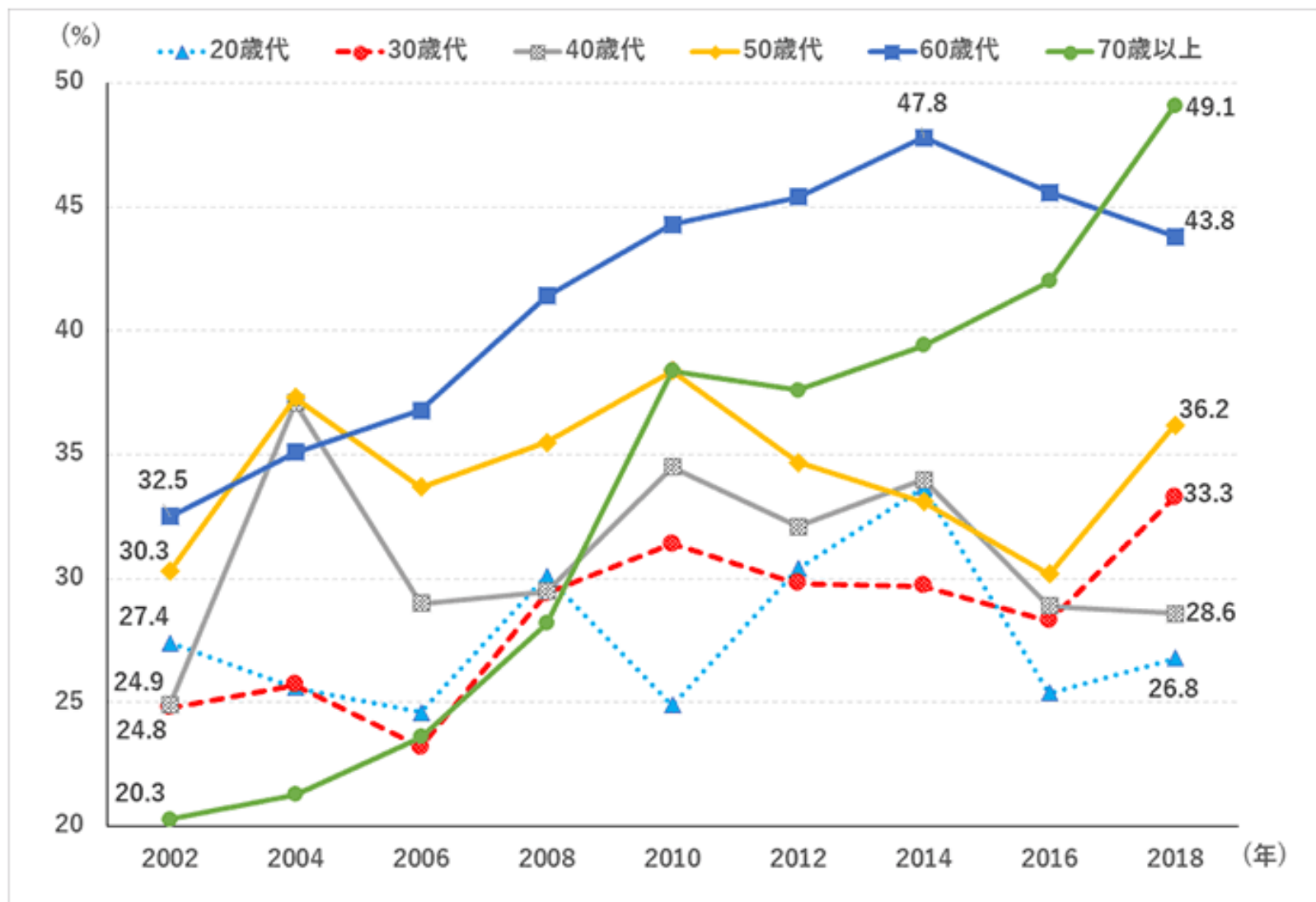


# 項目A・Bを用いた分析

## 定期的な運動・スポーツ実施率の年次推移

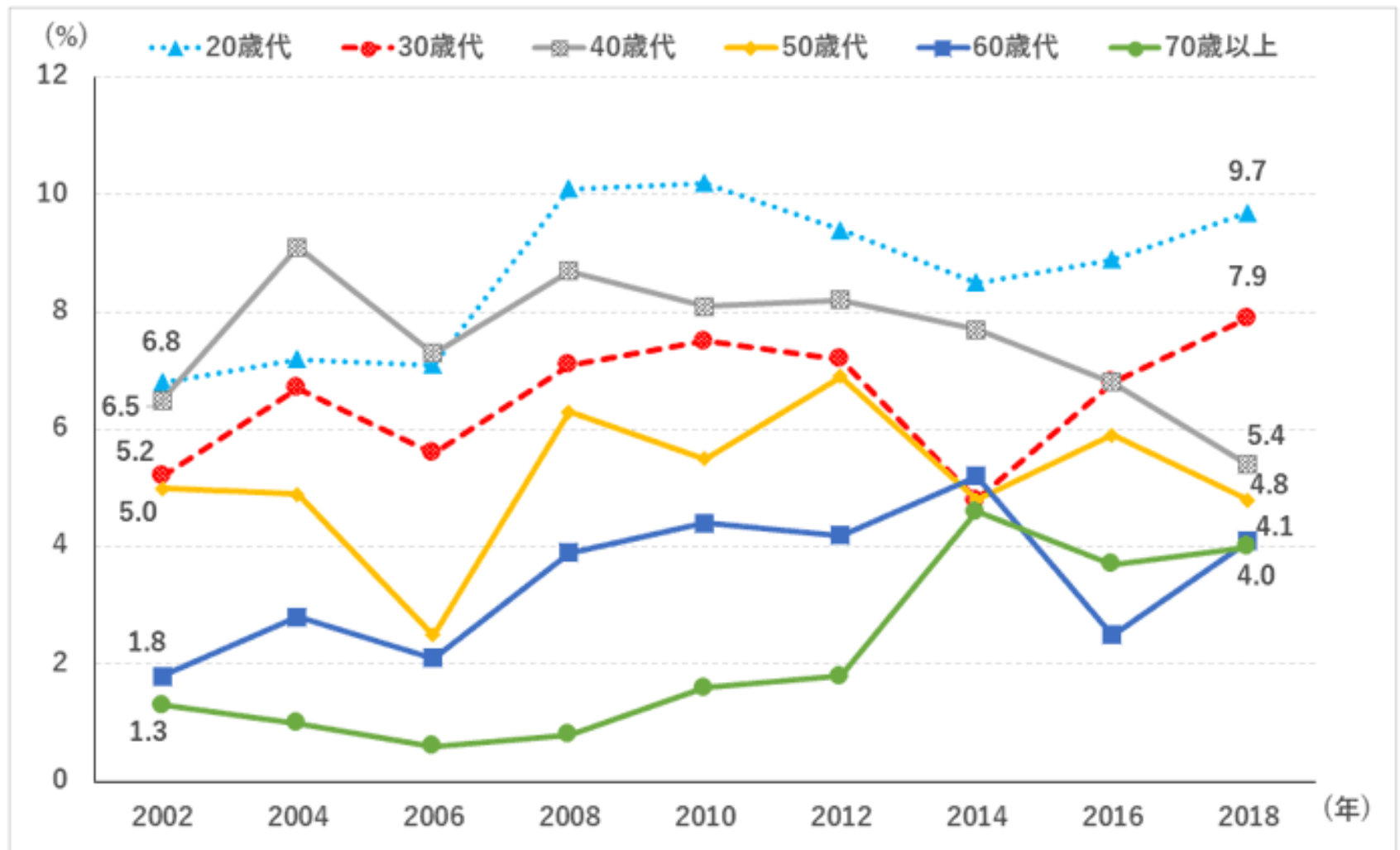


図2 エクササイズ系種目の週1回以上の実施率 年次推移



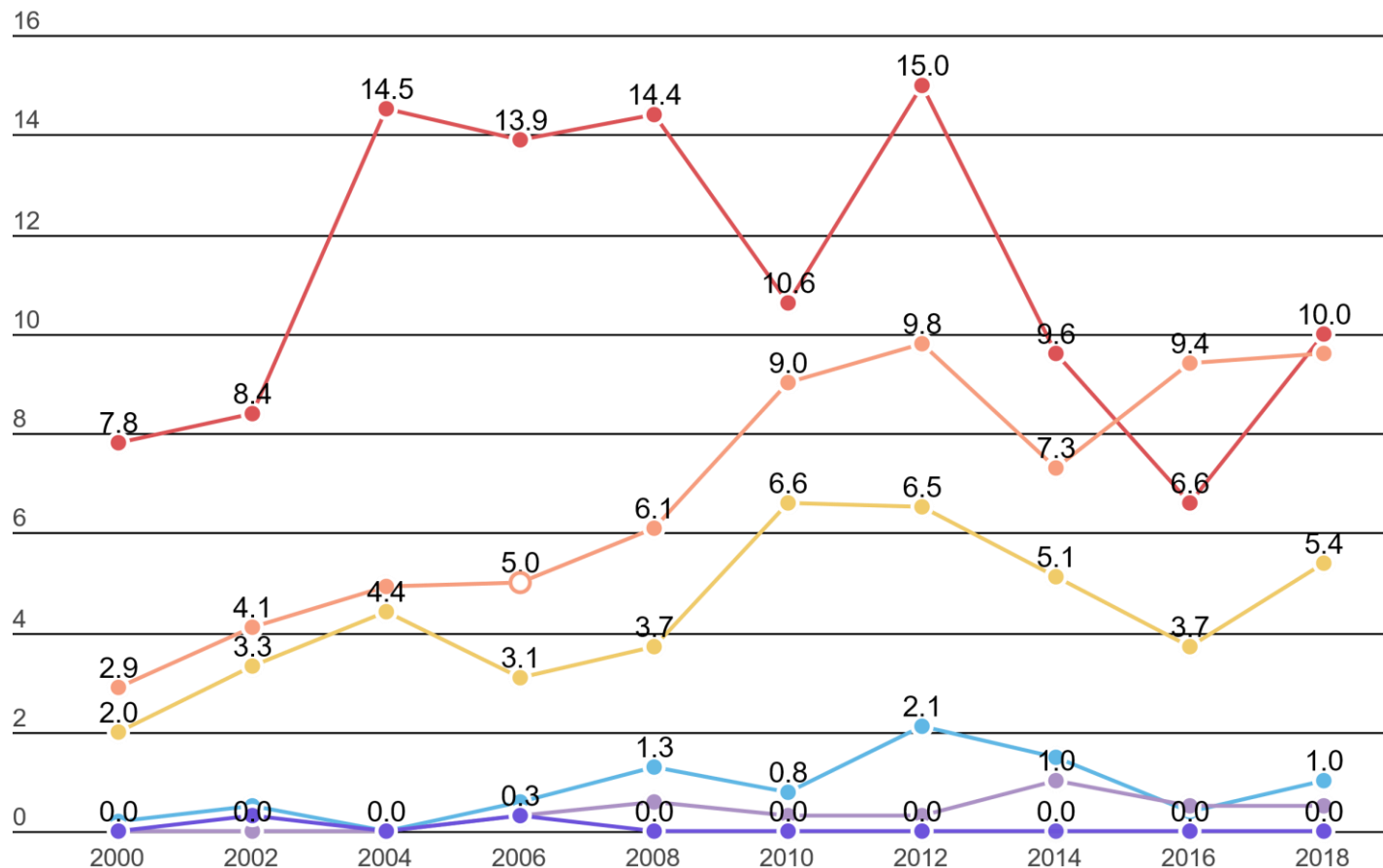
注1)エクササイズ系種目:ウォーキング、筋力トレーニング、サイクリング、ジョギング・ランニング、水泳、体操(軽い体操、ラジオ体操など)を含む

図3 競技系種目の週1回以上の実施率 年次推移



注1) 競技系種目: サッカー、卓球、テニス(硬式テニス)、バドミントン、バレーボール、野球

図2 年1回以上の「サッカー」実施率の推移(2000～2018年):年代別



笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査報告書」(2000～2018)より作成

年代別にみる年1回以上の実施率は、20歳代、30歳代、40歳代の順に高く、若い年代ほど実施率が高い傾向にある。特に30歳代と40歳代の実施率は、多少の増減はみられるものの、2000年以降継続して増加している。

表2をみると、20歳代・30歳代男性の実施率が特に高く、サッカー実施者は若い年代の男性が中心であると読み取れる。

図2 年1回以上の「野球」実施率の推移(2000～2018年):年代別

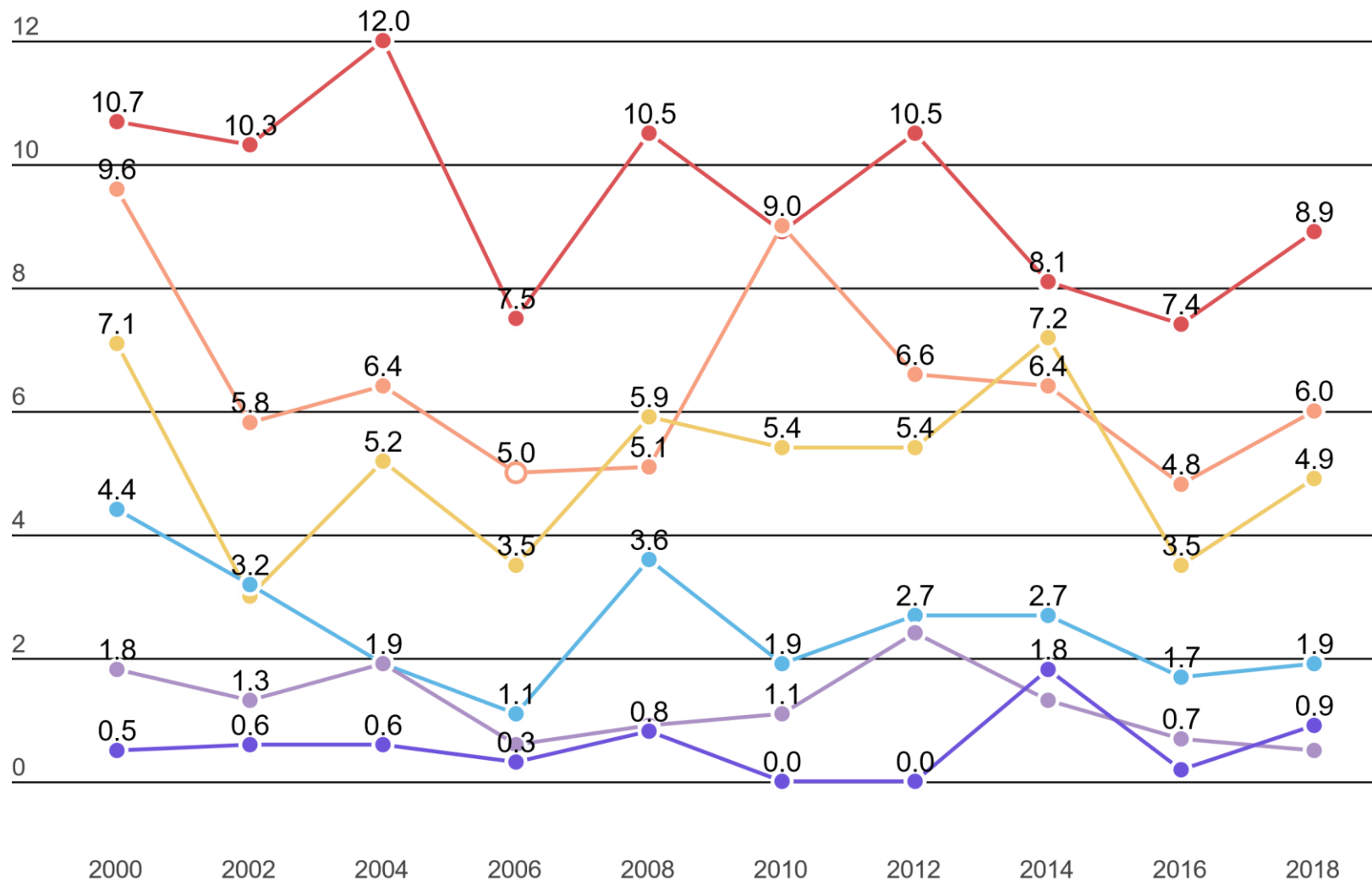




図2 年1回以上の「バスケットボール」実施率の推移(2000～2018年):年代別

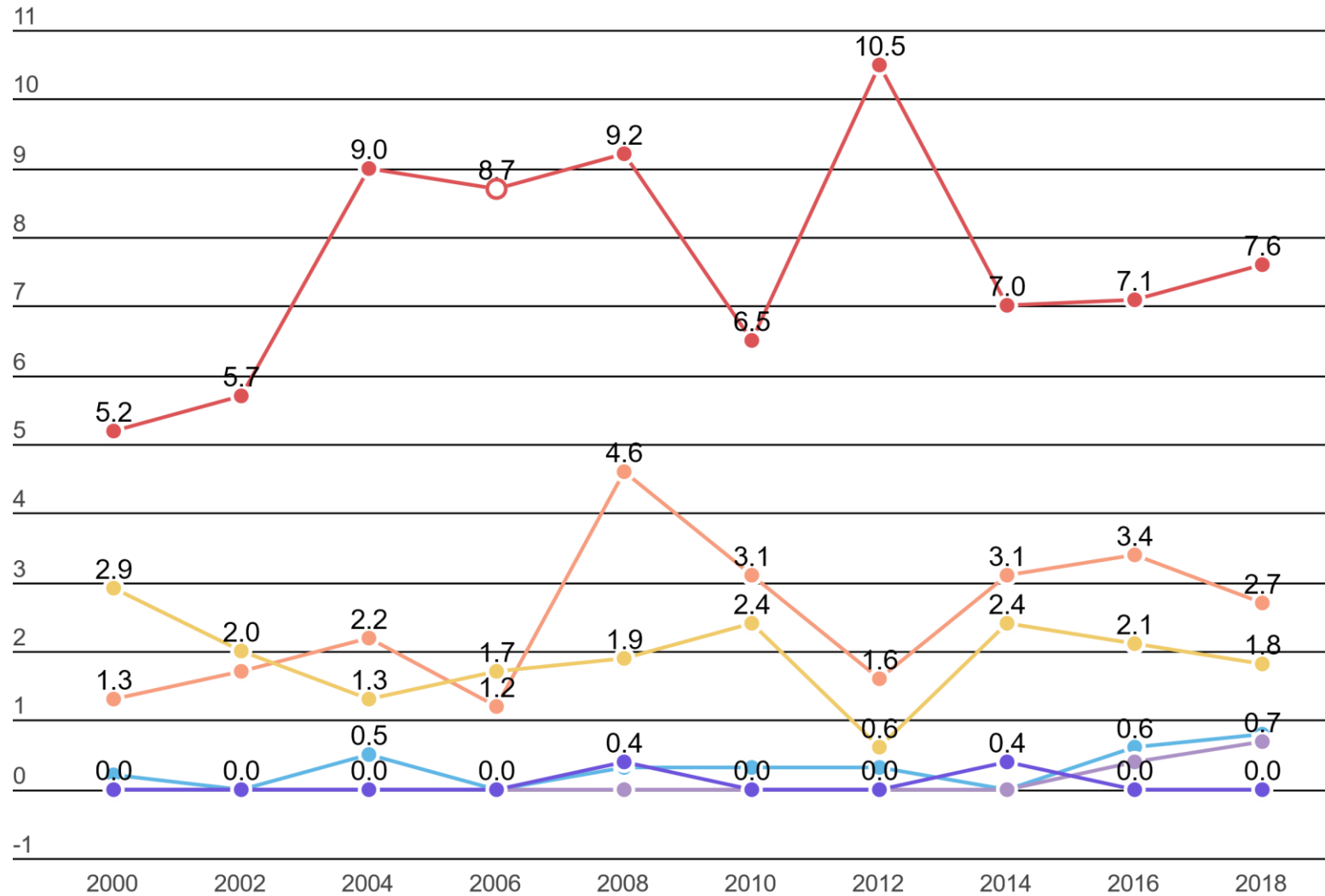
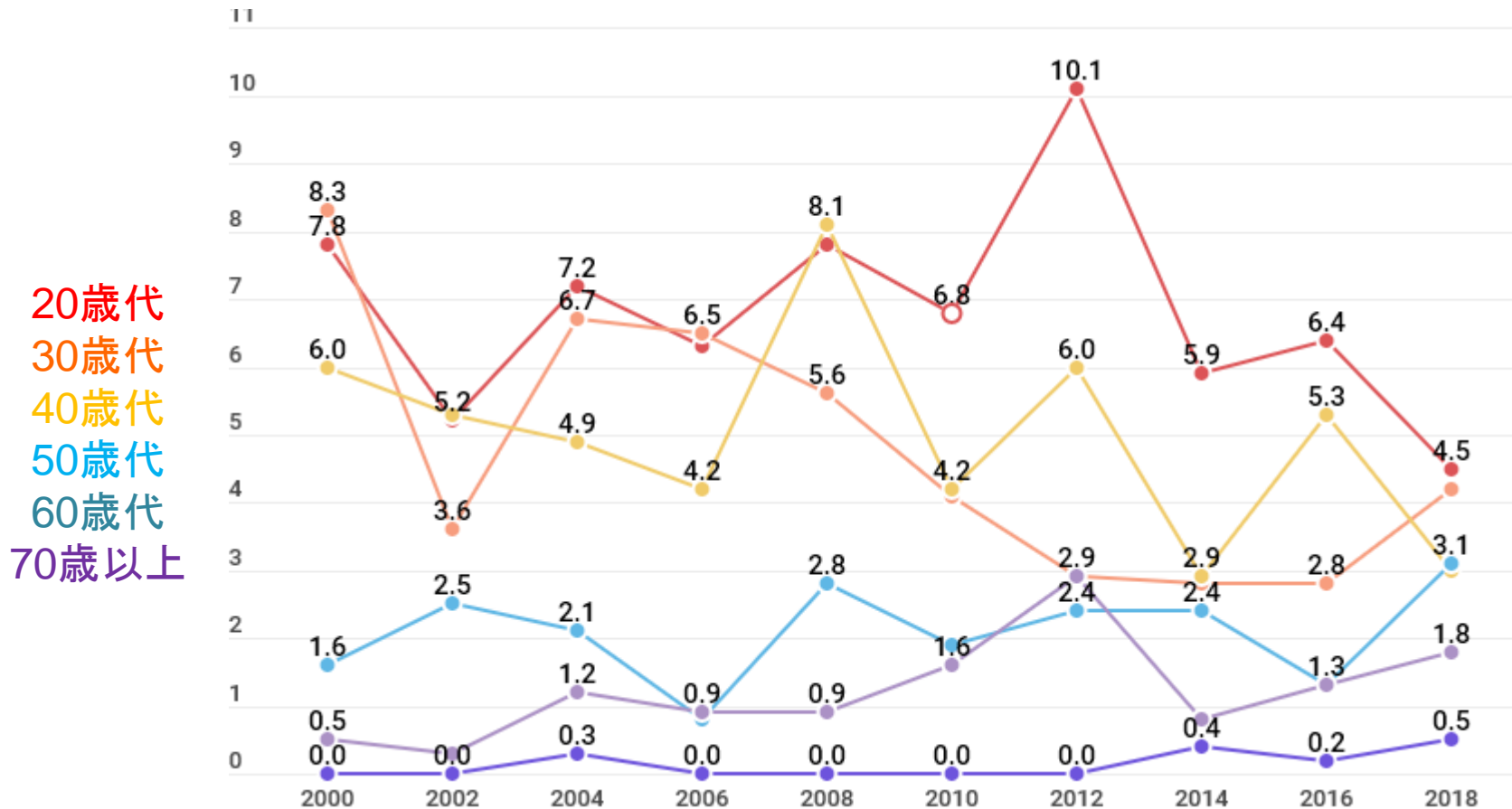


図2 年1回以上の「バレーボール」実施率の推移(2000～2018年):年代別



年1回以上の特徴:

- ・オリンピック開催年に高まり、その後低下する
- ・トレンドや雰囲気によりやすい
- ・若い世代はトレンドに敏感に反応して実施する傾向がある
- ・高齢になるとトレンドに左右されず、実施率も低い傾向がある

図表 1 余暇活動の参加人口上位 20 種目（2015 年～2016 年）

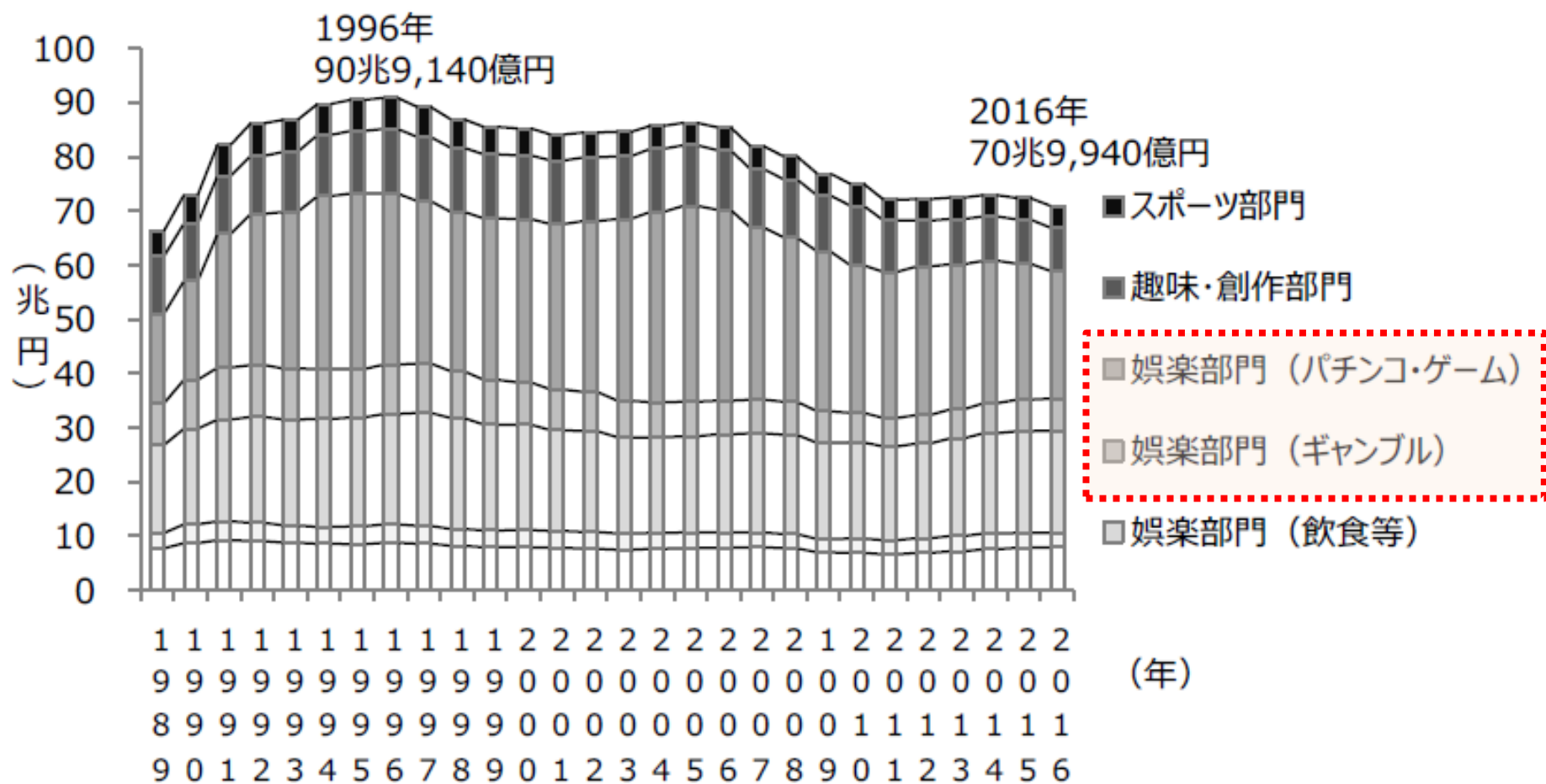
2015年		
順位	余暇活動種目	万人
1	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	5,500
2	外食（日常的なものは除く）	4,390
3	ドライブ	4,340
4	読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）	4,230
5	映画（テレビは除く）	3,660
6	複合ショッピングセンター、アウトレットモール	3,620
7	動物園、植物園、水族館、博物館	3,460
8	音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）	3,340
9	ウォーキング	3,290
10	カラオケ	3,160
11	宝くじ	3,050
12	ウインドウショッピング（見て歩きなど娯楽としての）	2,930
13	温泉施設（健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等）	2,880
14	ビデオの鑑賞（レンタルを含む）	2,860
15	園芸、庭いじり	2,670
16	音楽会、コンサートなど	2,430
17	SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	2,330
18	トランプ、オセロ、カルタ、花札など	2,300
19	ジョギング、マラソン	2,190
20	テレビゲーム（家庭での）	2,170



2016年		
順位	余暇活動種目	万人
1	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	5,330
2	外食（日常的なものは除く）	4,090
3	ドライブ	3,880
3	読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）	3,880
5	映画（テレビは除く）	3,560
6	複合ショッピングセンター、アウトレットモール	3,400
7	動物園、植物園、水族館、博物館	3,110
8	音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）	3,070
9	ウォーキング	3,010
10	ウインドウショッピング（見て歩きなど娯楽としての）	2,860
11	カラオケ	2,810
12	温泉施設（健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等）	2,740
13	園芸、庭いじり	2,660
14	宝くじ	2,620
15	ビデオの鑑賞（レンタルを含む）	2,610
16	体操（器具を使わないもの）	2,320
17	SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	2,280
18	音楽会、コンサートなど	2,220
19	トランプ、オセロ、カルタ、花札など	2,160
20	ジョギング、マラソン	2,020

（注 1）2016 年の網かけは前年に比べ順位の上昇、参加人口の増加があったことを示す。

# 余暇市場の推移



# 総合型地域スポーツクラブ

官制型

## 今後のスポーツ活動

異年齢

子どもから大人まで

多種目

多人数

専門の指導・経営

自主参加・運営

## 現在のスポーツ活動

同年齢

子供と大人は別々

・ 単一種目

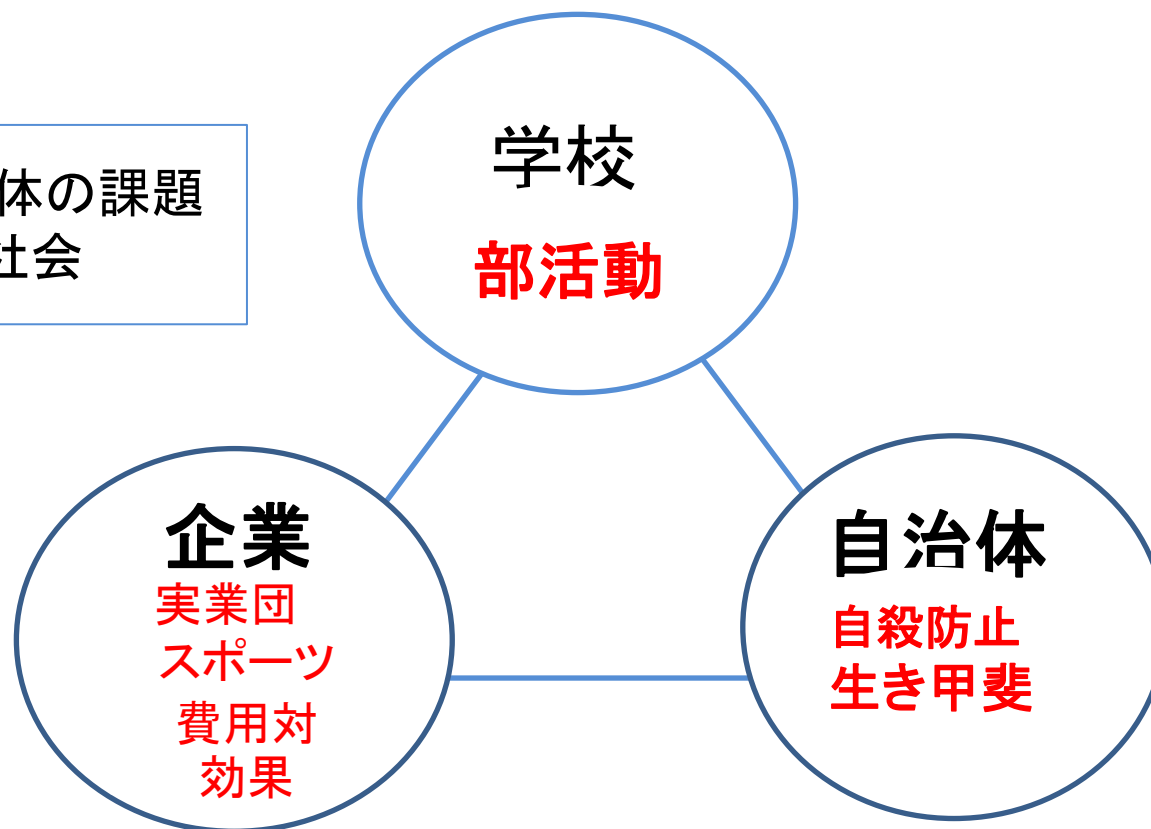
少人数(約30人)

選手・指導・経営兼務

指導者主体運営



学校・企業・自治体の課題  
少子・高齢社会



日・独スポーツクラブの比較：  
クラブ数、平均会員数

	クラブ数	会員数	平均会員数
日本	370,000	11,690,000	31.2
ドイツ	87,000	27,000,000	310.0



# 総合型地域スポーツクラブの現状

クラブ数が急増しているが、自立へ向けた基盤は脆弱

- ①総合型地域クラブ数：創設準備中を含め833（平成15年）
- ②会員・予算規模：
  - 会員1,000人以下が9割近く
  - 予算は100万円以下が約4割。半数が200万円以下の規模
- ③施設・活動状況：9割が借用施設。施設の自己所有は4%。管理委託は5%。
- ④人員体制：3分の2のクラブがマネージャー無配置。半数近くが事務局員無配置
- ⑤総合型地域スポーツクラブの認知度：認知度が低い

「よく知っている」：2% 「知っている」：9% 「聞いたことがある」：19%  
「知らない」：70%

- ⑥育成・支援の状況：
  - ・広域スポーツセンターは38都道府県59箇所に設置
  - ・平成16年度より日本体育協会が育成推進事業を開始
  - ・創設前のクラブに、2年まで、上限300万円の委託金が出る
  - ・46都道府県に66人のクラブ育成アドバイザーを設置
  - ・平成18年度よりマネージャー（マネジメント資格制度）の育成も開始



## 参考文献

『朝日新聞』2020年5月17日

黒須充、水上博司『総合型地域スポーツクラブ』大修館書店 2002年

『レジャー白書2017』

日本高等学校体育連盟『平成25年度加盟登録状況』

日本高等学校野球連盟『平成25年度加盟登録状況』

笹川スポーツ財団『スポーツライフ・データ2018』

